

国際学会MMMに参加して

工学府先端機能システム工学専攻M2 中西 勇太



はじめに

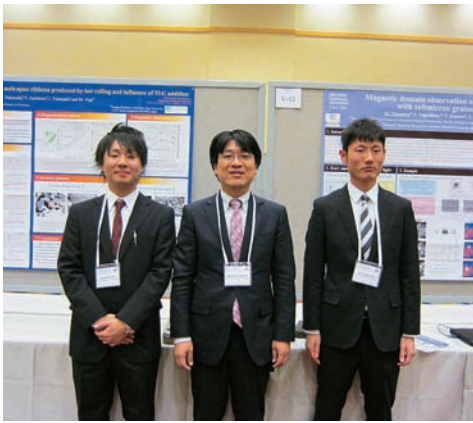
私が所属する工学府先端機能システム工学分野の竹澤研究室では、磁性材料の磁区観察を主とした研究を行っています。その中で、私は現在『圧延による希土類急冷薄帯磁石の異方性化』について取り組んでいます。急冷薄帯磁石とは、高速回転するロール上に溶融合金を噴出して薄帯を作製するメルトスパンという手法を用いて作製される磁石であり、現在はHDD等の小型デバイス用のモーターに利用されています。この急冷薄帯磁石を、圧延による結晶配向制御を行うことで異方性化し、磁

石としての性能を向上させることを目的とした研究となっています。

学会概要

今回、10月30日～11月3日にアメリカ合衆国アリゾナ州スコッツデールにて開催された56th Magnetism and Magnetic Materialsに参加し、発表を行いました。

MMMは主に磁性材料や磁気デバイスに関する発表がオーラル、ポスター合わせて述べ300件以上にもなる



発表会場にて

大規模な国際会議となっており、私はポスターセッションでの発表となりました。様々な国の研究者が参加する国際会議ですので、説明や質疑応答は当然英語で行われました。一通りの説明は事前に準備して練習を重ねていたので、スムーズに行うことができました。しかし、質疑応答では自分の予想していなかった質問を受けることが度々あり、伝えたいことを上手く伝えることができず、専門的な内容を英語でやり取りすることの難しさを感じました。この経験から改めて「語学力」を磨くことの重要性を痛感しました。

また、オーラルセッションでは、これまで参加してきた国内学会ではあまり見ることのできなかつたメルトスパンの研究発表の講演を聴講することができました。自分の手法とは異なるアプローチで異方性化を試みる海外の研究者の存在は私にとって、刺激になると同時に大きな励みとなりました。

本会議に参加し、海外の研究者の方々と交流をすることにより助言やコメントを得たことは今後研究を進めていく上で貴重な経験になったと

思います。

アリゾナ州といえば

アリゾナ州の名物といえばグランド・キャニオンです。学会会場からかなり離れてはいましたが、あの絶景を見ない訳にはいかないということで急遽ツアーに参加することになりました。日本ではまず見ることできない地平線を眺めながらバスに揺られること4時間。目の前に広がったのは、時差ボケの眠気を一瞬で吹き飛ばす程の絶景でした。



グランドキャニオンにて

最後に、本会議に出席するにあたり、奨学金の援助をいただいた明専会、ご指導いただいた竹澤昌晃准教授に厚くお礼申し上げます。